

CASBEE-建築(新築)2016年版
長岡京市新庁舎等

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境					0.39				3.5
1 音環境				3.4	0.15				3.4
1.1 室内騒音レベル		耐火遮音壁(TLD-56)の上に浮き遮音壁を設置(産文ホール)		4.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.61				
2 界壁遮音性能				3.0	0.39				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				3.0	0.20				
2 温熱環境				3.4	0.35				3.4
2.1 室温制御				3.8	0.50				
1 室温				3.0	0.38				
2 外皮性能		Low-eガラスを用いた複層サッシ、庇による日射の抑制		5.0	0.25				
3 ゾーン別制御性		階毎、棟毎、団体毎のゾーニングをしている。		4.0	0.38				
2.2 湿度制御				3.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30				
3 光・視環境				3.1	0.25				3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.30				
1 昼光率				3.0	0.60				
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 昼光制御				3.0	1.00				
3.3 照度		執務室は平均照度750lx確保		4.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25				
4 空気質環境				4.3	0.25				4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50				
1 化学汚染物質		天井裏・下地・接着剤を含め仕上材は全てF☆☆☆☆とする		5.0	1.00				
4.2 換気				3.6	0.30				
1 換気量		外調機(中央方式)の執務室の換気量を30m3/h確保		4.0	0.33				
2 自然換気性能				4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33				
4.3 運用管理				3.5	0.20				
1 CO ₂ の監視		執務室についてCO ₂ センサーによる風量制御を採用		4.0	0.50				
2 喫煙の制御				3.0	0.50				
Q2 サービス性能					0.30				4.1
1 機能性				4.3	0.40				4.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40				
1 広さ・収納性		執務エリアにOAフロア、OAコンセント盤の設置		3.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応				5.0	0.33				
3 バリアフリー計画				3.0	0.34				
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30				
1 広さ感・景観		執務スペース天井高さ3000		4.0	0.33				
2 リフレッシュスペース		各階に湯沸・自販機コーナー設置(執務スペース面積の1%以上)		5.0	0.33				
3 内装計画		竹等の天然材料を採用し、内装デザインを行う		5.0	0.34				
1.3 維持管理				5.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		防汚性・耐候性の高い仕上材を採用、庇等による汚れの防止		5.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		地下に清掃作業室、ゴミ庫とバスター車スペースを確保、各WCにSKを設		5.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				4.3	0.30				4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		免震構造とし耐震性1.5倍相当の損傷抑制設計とする		5.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		免震装置の採用		5.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(上水)にSUS、給水(雑用水)に粉体ライニング鋼管を採用		4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				4.6	0.20				
1 空調・換気設備		重要室については発電機回路としている。		5.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		井水利用や緊急排水槽を採用		5.0	0.20				
3 電気設備		サーバー室を4Fに配置、非常発電機+ガスコージェネ、サーバー室にCVCF設置		4.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		耐震クラスはAとしている。		4.0	0.20				
5 通信・情報設備		多回線引込、防災行政無線、BSアンテナ、サーバー室にCVCFを設置		5.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.6	0.30		-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	地上階高4.0m以上	5.0	0.59		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.08	5.0	0.41		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31		-	4.5
1	生物環境の保全と創出	既存樹木の移植、外構緑化率14.99%、建物緑化率5.05%	4.0	0.30		-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	市民広場・プロムナードの創出、外装に竹をモチーフとしたデザインを採用	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30		-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	市民広場、にぎわい施設、歴史資料展示室、屋上庭園の設置	5.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地内及び屋上の十分な緑化、設備機器の屋上設置	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.86	4.4	0.20		-	4.4
2	自然エネルギー利用	太陽光発電設備の設置	4.0	0.10		-	4.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.72	3.8	0.50		-	3.8
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.20		-	3.8
1.1	節水	節水型器具を採用	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	外構散水に雨水利用を導入	4.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60		-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床タイル、タイルカーペット、不燃有孔板、木製デッキ	5.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装材と設備機器の分離	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20		-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	ビニル床シート、タイル、壁紙等接着剤及び建具塗料の材料に使用	5.0	0.30		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.70		-	
1	消火剤	サーバー室に不活性ガス消火設備を設置	4.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33		-	3.8
ライフサイクルCO2排出率が79%			3.2	0.33		-	3.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.25		-	
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	地下ピットに雨水貯留槽を設置	4.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐車台数確保、ハッカー駐車場設置、アセリア通り以外に出入口設置	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	地下階にゴミ置場を設置	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.3	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	反射率の低い外装仕上(仕上塗材)を採用	4.0	0.30		-	